

議題

「第2期大阪府ギャンブル等依存症対策推進計画」に基づく
令和6年度施策の実施状況評価(案)について

議事 結果

令和7年度末（計画最終年度）の計画目標値達成に向け、
一部指標を除き、概ね順調に進捗していることを確認した。

◆ 推進会議委員の主なご意見

取組全体

- 計画の目標値に向かっていていると評価。一方でオンラインギャンブルの問題などは、差し迫った問題として取り組む必要がある。

普及啓発

- 予防教育は重要。府立高等学校等における予防啓発授業等の実施率が100%というのは評価できる。これからも継続いただきたい。府内の公立・私学を問わず、全ての高校が取り組まれるよう対象校の拡大とともに、出前授業はじめより充実した内容とするなど、質の向上に努めていただきたい。
- オンラインゲーム課金やギャンブル等依存の若年化が進んでいる。大学生から予防教育するのは遅く、中学生なども含め啓発対象としていけないか。
- 第2期計画で新たに作成した教育ツールやポータルサイトなどについて、継続的なコンテンツの充実や効果的な活用を引き続き実施いただきたい。

相談支援 医療支援

- 当事者のみならず、ギャンブル等依存症に起因した家族の生活に関わる問題やODなど他の依存も含め、家族全体の支援を行っていく視点が必要。
- 当事者の中には依存症に加え重複疾患を持っている事例もあり、支援団体と医療機関との更なる連携が必要。

回復支援

- 民間支援団体等としても相談者への継続支援に関わっていききたいので、相談拠点においては、相談者に対し民間支援団体等についてのさらなる情報提供をお願いしたい。

オンライン カジノ等

- サイト上ではオンラインカジノと銘打っておらず、ゲームの延長やスポーツベッティングなど多様化していることから、「オンラインカジノは違法です」という周知だけでなく、どのようなものが違法なのか、特に若年層に対し、より具体的に丁寧に伝える必要がある。
- オンラインカジノも拡大しているが、治療現場ではオンラインの公営競技など既存のギャンブルが依然として多いため、国の話ではあるが広告のあり方などの議論が重要。
- オンラインカジノの規制など国として取り組むべきところではあるが、IRができる大阪においては、より適切な依存防止策などを検討してほしい。

▶ 上記の委員意見を踏まえ、大阪府ギャンブル等依存症対策推進本部会議において、令和6年度施策の実施状況評価の結果取りまとめを行う。